

編集後記

『真実心』第二十一集をお届けします。一九九九年度の宗教講座が収められています。

この後記を書いている今、静かに雪が降っています。雪片を掌に亨けるとすつと掌の暖かさで消えます。

死ぬ日いつかあり今牡丹雪降る

橋本多佳子

人の一生なんて、宇宙からみたら、この雪片と変らない程はかないものです。ひらひら空を舞いつ、降りてくる雪、急いで降りてくる雪、途中で消える雪……。雪片一つ一つ同じものはありません。どれも美しくはかない、ゆえに、いとおしい命。

『真実心』が心の糧となりますように。

なお、山田明爾先生の「第三の眼」については録音の不備により、先生が以前ご講演なされたもの（『人生の眼』「りゅうこくブックス」No.四二、昭和六三年一〇月一八日、龍谷大学宗教部）を転載させていただきました。記してお詫び申し上げますとともに、転載をご快諾いただきました龍谷大学宗教部に深く謝意を表する次第です。

最後になりましたが、ご講話をお願いしました先生方には、ご多用のなか、原稿にお目通しをいただいたことを厚くお礼申し上げます。なお、本文の文責はひとえに編集委員にあることをお断りしておきます。

（編集委員長）